

グループホーム「仲間館・絆」

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「心より大切なれ、地域の一員として助けられたり、助けたり の輪に広げよう」との理念を掲げ、入居者の心に寄り添い、地域の中で根を生やした介護を目指しています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日理念を朝礼で唱和している。地域の方とあった時には笑顔で挨拶をし、困ったこと等無いですかと声掛けしている。地域の行事等に利用者様と一緒に参加して地域の方と触れ合うようにしている。心の声を聞き、心を元気にしてあげる事を目標にしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		心こそ大切なれとの理念で一期一会の出会いを大切にしている。地域のお祭りや行事に、利用者様とご家族様共に参加して頂く様に働きかけをしている。秋祭りや地域でのお祭りが無い為、当事業所主催の秋祭りに、地域の方や入居者様のご家族や知り合いの方々に参加して頂き、大変好評を得ています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		玄関入り口に「お茶でもいかがですか。どうか気楽にお立ち寄りください」という看板を設けて、気楽に立ち寄ってもらえるよう働きかけている。実際、見学にこられた方々でお茶を飲みながら談笑されてあつ。近隣の方への声かけや野菜を持ってきて下さったりのお付き合いをしています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の草取り作業や缶拾い、餅つき大会等に参加させていただいてる。近所の老人会の活動が無いのは残念ですが、志や寄付等を行いながら、少しずつながら活動地域を広めています。

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方のグループに水曜会とネーミングをし週1回ではあるが、コミュニケーションボランティアに参加して頂いて好評である。又自立支援の木曜会の方々にコミュニケーションボランティアで事業所に来ていただけるように呼びかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	資料を全職員に配布し、皆で討議した。職員個々の苦手なところのレベルアップを図る為、外部評価を受けていることを説明し、再認識した職員もいるが、出来ない職員もいる。月1回の話し合いを行いながら改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や状況を報告し、委員の方々から助言や意見、要望などを取り入れサービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や支援について、相談や分からないことがあれば市役所の担当職員に相談するようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議の中で成年後見人制度について学んでいる。成年後見人制度について必要な方に対しては説明をしている、理解して頂いた方については、病院などの紹介を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待防止の勉強会を行っています。当事業所でも虐待ではないか思われるケースがあり、カンファレンスを行い、家族に自制を促すことや、長寿介護課に相談するようにしています。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に際し、職員2名で応対し説明の漏れがないように努めている。利用者や家族の質問にもわかりやすいように説明し、理解して頂けるように心掛けているが、退所時にはもめるケースが見られるので、市役所に助言を頂き、入所前と退所時の部屋の写真を撮るようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が一番話しやすい職員に意見、不満など言われることが多いので、管理者報告後家族職員で話し合い、意見交換をして改善するようにしている又長寿介護課に相談に行かれるようにも説明している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや日常の生活、様子を知ってもらうため、月間利用状況報告書を1ヶ月分にまとめ郵送している。面会時に写真を見て頂いたり、普段の状態や経過を伝えるように心掛けている。尚 職員の移動等があった時は面会時に担当職員の紹介を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。ご家族からは管理者やスタッフへ直接相談があることが多い。無理なことは丁寧にお断りし、なるべく意見を取り入れ運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員より意見が出ることを歓迎し話しやすい雰囲気づくりに努め、入居者や利用者の状態を考えて意見をどしどし提案している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化などに対応し、病院受診等、一番把握している職員を配置したり、柔軟な対応が出来るように職員間で話し合い、勤務調整に努めている。</p>		<p>職員が足りない時期もあったので個別のサービスに対応できるように余剰人員を常に確保するようにしている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員と馴染みの関係が保たれるように異動などは最小現に抑え、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。又夜勤帯では1F・2Fの職員を入れ替えたりして顔なじみになるように務めている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別を問わないようにしている。個別に悩みや相談に応じ働きやすい職場作りに努め、社会参加を促している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>定期的な職員会議の中で、利用者の人権等について、話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等については、職員に積極的に呼びかけ、研修を受ける機会を確保している。毎月、法人内での研修を行い、育成に努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームのお祭りなどに参加したりして交流は交えている。又事業所協議会部会へも参加しています。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者に適切なケアを提供していくために、職員がストレスを溜めないように、個別に悩みや相談に応じ、コミュニケーションを良く取るようにしている。親睦会や忘年会、旅行など福利厚生も充実させている</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自主勉強をし、月末までにレポート提出すれば学習手当てが付くようにしている。個々の努力や実績に応じて昇給制度を採っている。初心に戻り、マニュアルを再度見直しするように取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人様の要望や思い出、家族の意見を傾聴し、何を求めているのか雑談を交えながら親しみの関係を作れるようにし不安の除去に努め、アセスメントを取るようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き、共感し、「その方にとって何が一番大事か」をアセスメントの中だけではなく、ご家族とも相談し、一緒に考え、信頼関係が築けるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小さなことでも聞き逃さず「その方にとって今何が必要か」を第一に考え、家族の協力を得ながら、家族と職員で話し合い、段階的の取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に病院や自宅へ幾度か面会に行ったり、事業所に見学に来て頂いたりして不安の軽減に努めている。なるべく利用者様本人が納得した上で入居してもらうように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	[昔取ったきねずか][お年寄りの知恵]等を活かしながら共に支え合う関係を築いています。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者に問題や変化があった時職員で良く協議し、ご家族に時間を取っていただき、本人にとってもっとも良いと思われる対処法を話し合いで決めるなど協力して頂いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までのご本人とご家族の関係や情報をお尋ねし、共により良い関係が続けられるように支援している。キーパーソンで出来ないことは関係者全員で相談し、利用者の理に合うように支援する。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の大切な馴染みの方など、関係が途切れないように電話や手紙、面会などの支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症が進めば、会話が成り立たなかったり、口論になったり、トラブルが発生することもあるが、その時は、個々の話を傾聴し、納得を得るように努めている。レクリエーションや談話を通じて入居者同士の会話も増えている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所になった方については、時々ではあるがお見舞いに行っている。		年賀はがきや手中見舞い、行事の案内のはがきを出して交流を図っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉、表情、顔色、動作等から一人ひとりの思いや、暮らし方への希望、意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、表情や会話、ご家族の話の中から、少しでも多くの情報を収集し、本人の意思に添うようにしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を職員全員が共有、把握し、日常の支援に活かしている。喫煙者に於いては、禁煙させるのではなく、過去の生活習慣を尊重している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の見守りの中で個々の利用者様の表情や言葉、動作を観察するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見、本人に傾聴したこと、主治医の意見書、看護サマリー、ケアマネ、ケアスタッフからの意見等を反映させ、介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと共に、状態の変化があった時は、本人、家族、職員、主治医からの意見を収集し、カンファレンスをして作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(気づき、バイタルチェック表)を詳細に記入して、問題点が出て来たときは、その時点で、職員間で話し合いを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。	0	管理だけではなく、もっと日々の様子や表情も書いて笑顔
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別に買い物、外食、通院などの要望があれば、家族の送迎ができない時、柔軟に対応している。又年に1回の宿泊旅行も実施している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方に唄を歌いにきて頂いたり、避難訓練や救急救命の講習の全員参加などを地域の消防署から来ていただき実践している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今まで必要性が無かったが、必要性が発生した場合は話し合い、支援します。	0	
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ必要性がなかったが、必要性が発生した場合は協働させていただきます。	0	
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に、今までのかかりつけ医か、当ホームの協力医院での診療を希望されるか決めて頂き、往診時には看護師又は介護職が付き添い、医師及びご本人が安心できるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	CMの資格をもった医師にお願いして指示や助言を頂き、情報交換等を行っている。又、必要時認知症の専門病院への受診支援も行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護師、協力医院の看護職とは気楽に相談ができて、介護職員も安心して対応が出来ている。又24時間迅速に相談、助言出来る体制を作っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は、なるべく多く病院に出向き、認知症が進まないように、医師及び看護師との話し合いを設け早期退院できるよう支援している。退院が決まった時は、今後の対処の為、医師や担当看護師、ソーシャルワーカー、OP、PTなどを交えて、カンファレンスを行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化になった場合、ご家族のご要望があれば、連携している特別養護老人ホームへの移設を支援している。終末医療についてはご家族様とご本人様の意見を聞き、選んでいた医師との連携をとっている。認知症がひどい為入院拒否された利用者様の看取りを御家族様の要望で最後までその人らしくとの方針で、ご家族様、職員一体となって行った。</p>		<p>関係者全員が理解、情報を共有できるように取り組んでいる。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人のペースで残された日々をやさしく笑顔で見守り支援している。出来る事、出来ないことを見極め、ご家族様とも十分話し合いを行いながら、主治医とも連携を取りつつ対応するようにしている。重度化の指針を作成しており、契約時に署名、捺印をお願いしている。</p>		<p>関係者全員が理解、情報を共有できるように取り組んでいる。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族様と別の居所の関係者と話し合い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。新生活の場へ、詳しい情報の提案をするように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を傷つけないよう言葉使いや介助に注意を払っている。又、個人情報に於いてもプライバシー等、守秘義務を守っている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用様の日々の暮らしの中より、思いや希望を聞きだして、本人で決めたり、納得して暮らして頂けるように支援している。難聴の方や性格的に内気な方等に対しても筆談を行ったり、心を開いて頂く様な声掛けをして自己決定を促すように働きかけをしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の今迄の生活を大切に、無理強いすることなく本人の意向に沿うように努力支援している。時間の流れに於いては職員の都合ではなく利用者様の生活ペースを大切にしながら、安全で健康に暮らせていけるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類を買うときや、お買い物をする時、連れて行き、利用者の好みを選んでいただいている。美容、理容室に於いても希望を聞き、本人好みのヘアスタイルをして頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に下ごしらえをしたり、味見や盛り付け等の食事の準備や、片付けをしている。肉が苦手な利用者に対しては魚を出したり等の努力をしている。時にはホットプレートでふなやきやお好み焼き、団子(かんざらし)など、皆で作れる工夫もしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の健康管理を考慮しながら、利用者の好みに合わせ対応している。タバコについては喫煙所を設けスタッフ見守りの元喫煙をして頂いている。飲み物やおやつについてはコーヒーやお菓子等の好みを取り入れて支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が多い方は、時間毎のトイレ誘導やオムツ点検などを行い、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄出来るよう支援している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1F・2Fにユニットの浴室があり、1F週3回(火・木・土)・2F週3回(月・水・金)入浴予定を組んでいる。又利用者様の希望に添って順番、時間を心掛け支援している。入浴日外でも要望があれば1階2階関係なく柔軟に対処している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はコミュニケーションや生活レクレーションを行い、散歩や買い物等の外出を心がけ夜間は安眠して頂ける様取り組んでいる。又一人ひとりのペースを尊重し、その人の状況に応じて相談し、昼寝や休息していただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様が得意なことを活かして出来ることを生活リハビリとしてその方にあった役割を持っていただき支援している。外食や買い物などの季節の行事などを織り込んで支援している。又同窓会などの参加もご家族と協議し参加出来る様前もっての関係作りを支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行した時、その方の能力に応じてレジの前でお金を渡して、なるべく自分で払って貰うよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に外食や買い物をしたいとの希望ある時には対応している。時にはバイキング料理を食べに行ったりして外出の機会を大切にしている。又週に1回は買い物などを計画し、外出支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2度(2泊3日の旅行1回、日帰り旅行を1回計画)希望者を連れて行っている。家族との同伴もお願いしています。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との希望にて家族へ電話したいとの申し出があった際、自分で出来る利用者にはなるべく自分でして頂くよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気楽に訪問して頂けるよう行っている。又長居されても良いように応接等を設けている。申し出があれば昼食等を準備し、食事を取って貰ったりそして、楽しく過ごして頂けるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないとの理念を掲げ実践している。スタッフ間が同一レベルで身体拘束をしない介護が出来るよう取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はない。職員の理解があり鍵を掛けないケアを実践している。工夫として職員の見守りや利用者の外出傾向を把握し、対応している。又安全の為に入り口にチャイムを設置している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認を行い、徘徊される方は職員間で声掛け見守りを強化しています。夜間は1時間から2時間毎に安全確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食をされる方は、現在いないので危険と思われる漂白剤等は見えない所に保管しているが手指消毒等の容器は下駄箱の上に置いて使用して貰って職員が安全確認をしながら見守りを行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスで事故報告書やヒアリハットの書類を使い、事故防止の学習をし、一人ひとりが利用者様の体調や危険度を判断して職員同士話し合い事故防止に努めている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一度、救命講習を受講したり、毎月、勉強会を開き、指導者による講習を受けたり、マニュアルを用意して全ての職員が対応できるようにしている。		定期的に訓練を行っているが一部の職員はまだ不十分である。引き続き訓練を行ってほしい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練及び避難訓練を実施し、地域の方や消防署の方へも日頃から協力をお願いし、消火器の点検、避難通路の確保、確認を怠らないようにしている。スプリンクラー設置も終了している。消防団へのお願いは定期的に行っているが、地域の方たちの協力がなかなか得られなくこれからの課題にしていきたい。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクを家族に説明し、理解していただき、数名に同意書などを頂いている。利用者がのびのびした暮らしが出来るよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインチェックをし、体調の変化や様子の変化を見逃さないようにしている。又目配りを大切にして、異常時には様子観察を行い、必要時には病院受診や往診依頼を行い、早急な対応を図っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬管理を行い、薬の変動ある場合は、その都度申し送りや朝のミーティング等で確認し、職員に周知徹底を図っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日リハビリ体操やレクリエーションを行い、身体を動かす働きかけをしている。毎日の食事に食物繊維の多い食材を使い又水分摂取が多く出来るように飲み物の工夫を行っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝の洗面及び毎食後の口腔ケアを行っている。歯科医師より口腔ケアもしてもらい異常時は往診治療を依頼している。歯磨きうがいは自分で出来る方は自分でして頂いている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは毎回行い、摂取量が確保されているか記録している。水分量は1日7回から9回摂取してもらい、摂取量の量、時間を記録しています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成し、消毒、予防に気をつけ、実行している。玄関入り口に手指消毒アルコール、マスクを準備し、来客者には必ず手指消毒をしてもらっている。必要ある時はマスク着用で、入居者には食事前には手指消毒を行い、緑茶でのうがいを勧めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキンは漂白剤に浸し、消毒をしている。調理する時、石鹸流水で手洗いをしている。週2回の買い物で新鮮な食材を用意している。冷蔵庫の整理整頓清掃を必週1回必ず行い衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口にはプランタンを置いて、季節の花を植えている。玄関入口の看板には「お茶でもどうぞ」と書いて訪問しやすい施設作りを目指している。入口は自動ドアを採用しバリアフリーにも気をつけています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾り付けやお花を活けたり、音楽を流したりして、ゆっくりとくつろげる雰囲気作りをしている。トイレは便座を温かくしたり、浴室はハロゲンヒーターで温めたり工夫をしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファやベンチを置き、自由に過ごせるような空間を作っている。テレビ鑑賞して頂いたり、会話をされたり、思い思いに過ごせるように工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っていたタンスや仏壇を持ってきて頂き、思い出の写真や人形等の置物を飾られ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン、空気清浄機、加湿器等を配置し、外気温との差がない様に配慮しており、定期的に窓を開けて空気の入替えなど、不快感を与えないように努めている。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁側には手摺を設置し、安全に移動できるように工夫している。手摺のない空間では、誘導の声掛け、見守り介助をして、安全に生活できるよう支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人が納得される働きかけをして自分で出来ることは自分でしていただくようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設横に犬を飼っており、時には一緒に遊んだりされて気分転換をされている。ベランダでは車椅子ごと日光浴を楽しんだり、喫煙場所を設けたり、畑に季節毎の野菜を植えたり、収穫したりして、収穫の喜びを味わってもらっています。		

グループホーム「仲間館・絆」

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
		0	数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム「仲間館・絆」

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	0	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、普通の人々が普通に暮らすように温泉にも行けるし、旅行にも行けるよう支援している。
- 2、市や町のイベントなどに見学に行き、入居前の顔なじみの方とあって話ができるよう機会を作っている。なるべく刺激を与え感動を与えるケアを目指している。
- 3、家庭的な環境の中で、寂しさを感じさせない様、笑顔の声をかけや心のケアを一番大切にしている。又、我儘が言える家の様な棲みかになりたい。
- 4、医療面、栄養面、経済面において御家族の不安を最小限に抑え、より良いサービスを提供したい。